

## 留学報告書: 2020 年 6 月

2016 年度奨学生 澁谷陽子

こんにちは、スタンフォード大学経済学部在籍しております澁谷です。今回の留学報告書は皆さんがコロナウイルスについての近況を報告されていることと思いますが、私もアメリカ西海岸の様子を少しお伝えしたいと思います。

今年は春に友人の結婚式に参加するため日本に帰国する予定でしたが、2月末から日本の状況が悪化し大学側からアジア（特に日中韓）への渡航制限が発せられたため帰国をキャンセルしました。その後すぐ3月中旬にはサンフランシスコ・ベイエリアに外出禁止令が出され、今日でちょうど3か月、スーパーや銀行以外には全く外出できない状況が続いています。レストランやデパート、バーなど外出が出来ない生活に少し嫌気がさしているものの、博士課程4年目にもなると授業も履修しておらず、外出禁止令が出て以前と研究生生活については以前とさほど変わらない生活を送っています。私の周りでも既に仕事をレイオフになってしまった友達がいる中、以前とかわらず研究をして奨学金をいただいて生活を出来ていることに、今まで以上に感謝しています。

世界経済全体が打撃を受けていますが、株価の悪化、授業数の減少、大学寮の利用者の減少等により大学経営も急激に悪化しているようで、スタンフォード大学からも「2020年度は250億円以上の赤字を見込んでおり人員の削減をしなければならない」といったメールが毎週のように届きます。博士課程の学生として一番気になるのがアカデミアの就職活動市場の状況なのですが、現時点で多くの大学が「今年は新しくファカルティを雇うことができない」といった声明を発表していて、今年来年のジョブマーケットはかなり厳しいものになると予想されます。ここまでネガティブなことをつらつらと書いてしまいましたが、最後に私の在籍する経済学部の先生が学部メーリングリストに向けて送った温かいメッセージが生徒の間で話題になっていたのもので、引用させていただきながら報告書を締めたいと思います。以下の先生からのメッセージにもありますが、今年は健康な生活の重要性を再認識させられる年になったと思います。普段支援してくださる船井財団の方々、奨学生の皆さんもどうかお身体に気を付けて毎日をお過ごしください。

"Please make taking care of yourselves your first priority and put work explicitly on a lower tier. Taking care should be interpreted broadly -- doing what you need to do for your physical and mental health, of course, but also all the other parts of life that feed you and keep you balanced. That might mean real/virtual time with family and friends, exercise and enjoying the outdoors, art, cooking, watching dumb comedy videos and sports reruns, etc.

(I'd recommend *excluding* reading news and political commentary and frequently refreshing COVID stats/graphics from that list!)

Take this as a baseline: We pause work completely for this time. If you were going on the job market next year you will go the following year. Whatever was going to get done in this six months will get done in the following six months. Everyone is in the same boat, and you will be able to pick up where you left off without meaningful penalty.

Maybe you will choose not to take that option and to keep doing some work, but I want you to realize that the full pause is 100% feasible and 100% fine. Whatever you choose, let that baseline be the reference point from which you judge how you are doing, rather than what you would have gotten done in a different world."